

# 平成26度 自己評価書

学校名	和歌山市立有功中学校
校長氏名	酒井 幹 司
作成日	平成26年11月11日

## 1 教育目標

自ら考え 自ら学ぶ 心豊かで 思いやりのある たくましい 生徒の育成

## 2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域及び関係機関等との連携を密にし、保護者や地域の信頼を得て、魅力ある学校づくりを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての教育活動を通じて、感動体験を増やす取組を推進する。また、生徒、保護者、教職員の人権意識の向上を図るうえで、人権・同和教育の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の習慣化や朝学習により学習の定着を図り、基礎学力の充実に努める。</li> <li>朝の読書を推進するとともに、うちどくにより国語力・言葉の力の向上を図る。</li> </ul>
取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区内の地域へ出かけ清掃活動を実施している。</li> <li>本校で体育大会を催し、地域の住民に参加してもらえるよう取り組んだ。</li> <li>本校で文化学習発表会を催し、地域の住民に参加してもらえるよう取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員については、有功ブロック人権実践交流会で校区内の小学校の教員との交流を図ったり、人権意識を高めたりと研修(講演会等)を年2回実施している。</li> <li>年2回の人権・同和特設を実施し、人権意識の向上に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期休業中の自学自習を基本とした学習タイムの取組を進めている。</li> <li>朝学での基礎基本的な学習とトライタイムでの朝学での学習の確認テスト及び朝の読書を実施している。</li> <li>授業後の確認小テストを繰り返す行うことで基礎学力の定着を図っている。</li> <li>国語力向上を図るためうちどくにより言葉の力の育成を図る。</li> </ul>
取組の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が一丸となって生徒指導等子ども達とできるかぎり触れ合う時間を多く持つことにより、昨年度に比べ更に生徒が落ち着いて学習に取り組んでいる。これは、子どもたちの校舎内外の様子等を随時知らせてもらえるという地域の方々の支援があればこそと感謝している。現在、民生委員、自治会等、地域との連携を深め問題解決を図るシステムを構築しているところである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年ペットボトルのふたを集めワクチンを海外の子ども達に送ることやプルタブを回収し車いすを送ること等子ども達自らが企画し実践しているところである。思いは目に見えないが、思いやりは心に響くをテーマに、全校生徒にまで優しさが広がっていくよう努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査の結果では、全国平均に及ばない実情があり、調査結果の概要と今後の具体的取組についてHPに記載している。</li> <li>家庭での学習習慣が身につけていない生徒、学力が定着しにくい生徒への組織的かつ具体的な支援策を検討中である。</li> </ul>
次年改善に方向付けての	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域共育コミュニティの担当者を中心として、より地域や保護者との連携を深化させるような取組を進めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての教育活動において、人権・同和教育が推進できるよう、特設授業だけでなく、ゲストティーチャーの招聘や車いす体験などの機会を増やしていけるよう学校行事や総合的な学習の時間の充実を図るとともに、教職員の意識向上にも努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援シートを活用し、各分掌で検討を図り、学力が定着しにくい生徒への支援策を検討している。</li> <li>長期休業中での学習タイムで補充的、発展的な学習が展開できるようなシステムだけでなく、シラバスを構築する。</li> <li>調べ活動、話し合い活動を大切に「授業のめあて」を明確にした授業改善を行っていく。</li> </ul>

## 3 その他の課題

現在の職場の状況は日々校務に追われ、じっくり考えながら担当業務の質を高めるような精神的、時間的ゆとりが決定的に不足している。また、教職員集団は現在大きく2層に分かれ、経験年数も大きく異なる。したがって、校務を円滑に推進するためには、スタッフ全員が理解し、ほぼ同じ判断基準で行動するための質疑と協議の時間が必要になる。こうしたことを解決する手だての一つとして、事務連絡と協議事項の棲み分けなど会議の能率化を図ることが重要となる。今年度重点目標を明確化し、実現可能なものから一つずつ解決していけるよう取組を進めている。今後組織的かつ機動的な学校運営を推進するために、明確な目標と実現可能な施策を策定し、教職員に周知徹底していきたい。